

医師紹介

着任医師に10(TEN)の質問

- ①診療科(専門) ②①を選んだ理由 ③出身地 ④ふるさと自慢 ⑤座右の銘
⑥最高のリラックスタイム ⑦人生で最高の褒め言葉 ⑧当院の印象
⑨これから当院で取り組みたいこと ⑩読者のみなさんへメッセージ

外科部長 白水 章夫 医師

- ①消化管外科 ②楽しく食べられるためのお手伝いをしたい。
③別府市 ④温泉 ⑤人に優しく、自分に厳しく
⑥お風呂 ⑦「助けて頂いて、ありがとうございました」
⑧明るくて広い ⑨胃癌・大腸癌の手術を増やしたい。
⑩身体に優しい腹腔鏡下手術をすすめていきたいので、ご紹介をお願いします。

整形・小児整形外科部長 岩崎 達也 医師

- ①小児整形外科 ②未来のある子どもたちの治療にやりがいを感じるからです。 ③津久見市 ④美味しいお魚とみかん
⑤いつも楽しく ⑥わか子と遊ぶこと ⑦「任せた」
⑧地域に根ざした病院でありながら、患者さんの需要に応えようとする姿勢が素晴らしいと思います
⑨整形外科全般を診ながら、できる限り小児整形のニーズにお応えしたい。 ⑩がんばります！遠慮なくご相談ください。

呼吸器内科 濱中 良丞 医師

- ①呼吸器内科一般、感染症 ②学生時代の実習で一番興味を持ったので ③大分市員来 ④貢来市の市(毎年)と大名行列(6年に1回) ⑤初志貫徹 ⑥ちいかわを見ること ⑦「先生に診てもらって良かったです」 ⑧非常勤時代に、中庭があって開放的だと感じました。 ⑨外来、救急、入院患者さんの対応はもちろん、臨床研究も含めてがんばりたいです。 ⑩呼吸器疾患でお困りの際は、お気軽にご相談ください。

呼吸器内科 長岡 雄平 医師

- ①呼吸器内科一般 ②研修医のときから面白いと感じており、良い指導医に出会えたことで決めました。 ③国東市 ④仏の里 ⑤一期一会 ⑥ゲーム ⑦「先生で良かった」
⑧建物が凝っていて病院らしくないなあと思いました。
⑨呼吸器疾患の患者さんを一生懸命診ていきたいと思っています。 ⑩よろしくお願い致します。

看護部長 挨拶

看護部長
野田 真由美

天心堂へつぎ病院は、大南地域や県南地区の皆として、全人的かつ包括的な医療・介護・福祉・保健を統合した全世代型の地域包括ケアシステムを推進しています。昨年度は、コロナ禍で休休していた緩和ケア病棟を再開しました。また、急性期病棟から地域包括医療病棟へと転換し、急性期・回復期・終末期までと対応可能となりました。

そのなかで、わたしたち看護職員は、患者さんの想いに添い、その人らしく、安心して暮らせることを大切にし、多職種で話し合いながら、よりよいケアの提供に努めています。

令和6年度には、働き方改革に意欲的に取り組むとともに、人材育成につながる取り組みの結果、「大分県動きたい医療機関認証制度～大分ホスピレート～」を認証しました。引き続き、人格・人権を尊重した人づくりを継続していきます。

更に、他の医療・介護施設の皆さまと連携し、地域の皆様から、「私たちの大切な病院」と言っていただけるように、皆で取り組んで参りたいと思います。私たちを育むチームの一員として、ともに参加をお願いいたします。

へつぎ病院 外来診療担当表

午前診療(9:00～12:00)

2025.4.1～

診療科名	月	火	水	木	金	土
外科/大腸・肛門外科	白水 章夫		白水 章夫		白水 章夫	大学医師交替
小児科	佐藤 宏	佐藤 宏	佐藤 宏	佐藤 宏	向井 史子	佐藤 宏
発達相談外来(要予約)						佐藤 圭右(2・4)
整形外科	今川 正人 (臨時は11:00まで)	今川 正人 (臨時は11:00まで)	岡 治道 (受付は11:00まで)	今川 正人 (臨時は11:00まで)	岩崎 達也 (臨時は11:00まで)	大学医師交替 (1・3・5)
小児整形外科				岩崎 達也 (臨時は11:00まで)		
呼吸器内科	梅木 健二		長岡 雄平	濱中 良丞	梅木 健二	
脳神経外科		初井 泰朋 ※10:00～開始	尾藤 昭次			
腎臓内科	岡部 英司				内田 大貴	
循環器内科	日野 充貴	河野 嘉之		※佐藤 崇史 (予約のみ)	河野 嘉之	
リンパ管外科・再建外科			濱田 裕一			
血液内科(要予約) 新患は11:00までに受付		奥廣 和樹			西川 匠	
形成外科						岩本 直朗
リハビリテーション	○	○	○	○	○	○

※木曜午前循環器外来は生活習慣病二次検診外来も兼ねる

午後診療(14:00～17:00)

診療科名	月	火	水	木	金	土
小児科(15:30～17:00)	佐藤 宏	佐藤 宏		佐藤 宏		佐藤 宏 (15:00～)
発達相談外来(要予約)			佐藤 宏 (新患2名)	佐藤 宏 (新患2名)		佐藤 圭右 (2・4週)
乳児健診(要予約) (14:00～16:00)		佐藤 宏		佐藤 宏		
予防接種(要予約) (14:00～16:00)		佐藤 宏		佐藤 宏		
整形外科		田仲 和宏				
小児整形外科		岩崎 達也				
消化器内科 15:00～17:00			佐藤 義浩	佐藤 義浩		
脳神経外科			尾藤 昭次 (予約のみ)			
循環器・生活習慣病二次検診外来(14:00～16:00)				鳥越久美栄(1・3・5) 日野 充貴(2・4)		
泌尿器科	神崎 正徳		神崎 正徳			
リンパ管外科・再建外科	濱田 裕一					
心臓CT外来				田村 彰 (予約のみ)		
血液内科(要予約) 新患は16:00までに受付					西川 匠	
緩和ケア外来(要予約)		小栗 洋平			小栗 洋平	
皮膚科				宮本 麻子		
ものわずれ外来(要予約)	宮本 正史		宮本 正史		宮本 正史	
リハビリテーション	○	○	○	○	○	○

- 1.受付は診療終了の30分前までになります。
2.予約および予約の変更 平日14:00～16:30に電話でのご連絡をお願いします。



公式 Instagram
@TENSINDO_HETSUGIHOSPITAL

人々に寄り添い、地域社会に寄り添う

社会医療法人財団天心堂 へつぎ病院

〒879-7761 大分市大字中戸次字二本木5956番地

TEL 0570-034577(代表) FAX 097-597-5833



天心堂 へつぎ病院 だより

Tenshindo-HetsugiHospital NEWS
2025 Spring



へつぎ病院の ここが好き！

へつぎ病院の桜は、職員にとって特別な存在です。毎年春になり満開の桜の花が咲くと、患者さんとともにその美しさを楽しみ、心温まるひとときを共有します。そして、この美しい桜を見上げ患者さんの回復を願いながら、職員としてこの桜のように成長し続ける想いを胸に誓います。

診療技術部代表 和田光代

2025春号

Contents

- ・座談会
2025年度天心堂へつぎ病院の展望
- ・着任医師紹介
- ・看護部長ご挨拶

2025年度 天心堂へつぎ病院の展望

今後のビジョンと現状の課題

阿南：広報誌の発行にあたり、院長、両副院長に座談会形式でお話を伺います。テーマは『この地域における当院の役割をふまえた今後のビジョンと現状の課題』です。では早速ですが、この地域における当院の役割について、それぞれのお考えを教えてください。

岡部：今後高齢化がさらに進みます。私が着任した17、18年前に比べて高齢者は増えています。当時から感じているのは、高齢者は単一疾患ではなく多重疾患を抱えた患者さんが多いということです。まずは、病院の機能として内科・外科様々な専門の医師が揃っていることを活かして、生物学的にどういう状況であるかを正確に評価することだと思います。これは病院の本質だと考えています。地域の中においては、いろんな施設があり、法人内でも様々な施設があるので、情報共有して、顔が見える医療を展開し、お互いに頼ることができる関係を築くことが必要です。患者さん、ご家族以外でも我々に関わる方々が、我々の病院を知って、信頼してくれる病院を作り上げていくことが大事だと考えています。

阿南：呼吸器内科専門医の視点から考えるこの地域での役割は？

梅木：近隣に大きな病院はないのである程度の高度な医療の提供、それ以上の高度医療となれば大学病院・県立病院と連携をとることも重要な役割の一つであり、当院は在宅復帰支援において高い機能を備えています。高度医療を受けた患者さんが戻ってきた際には、在宅復帰に向けた支援を行うことも、私たちの大切な役割であると考えています。

阿南：高齢化の話がでしたが、循環器内科としては動向やニーズもふまえて、どういった診療を展開していくことが必要だとお考えでしょうか。

河野：高齢者に限って言えば、2040年までは高齢者が増えますが、手術を必要としていく人たちは減っていきます。そこを地域医療としてどう担っていくかになると思います。循環器疾患で言えば、心不全パンデミックの言葉もあるように、高齢者が増えるに従って心不全の方は増えていくので、その需要に合わせて診療を行っていく必要があると思

います。当院の循環器は充実しているので、梅木先生のお話にもあったように、心不全で入院しても在宅復帰を目指す。まさに2024年8月に急性期病棟から転換した地域包括医療病棟の役割だと思うので、そこをしっかりと果たしていくことが重要だと考えます。

阿南：当院の役割の大きな柱の一つが、入院から治療を終えて在宅復帰に至るまでを担うというお話ですが、今後どういった展開をしていくのか、ビジョン・方針はどのように考えますか。

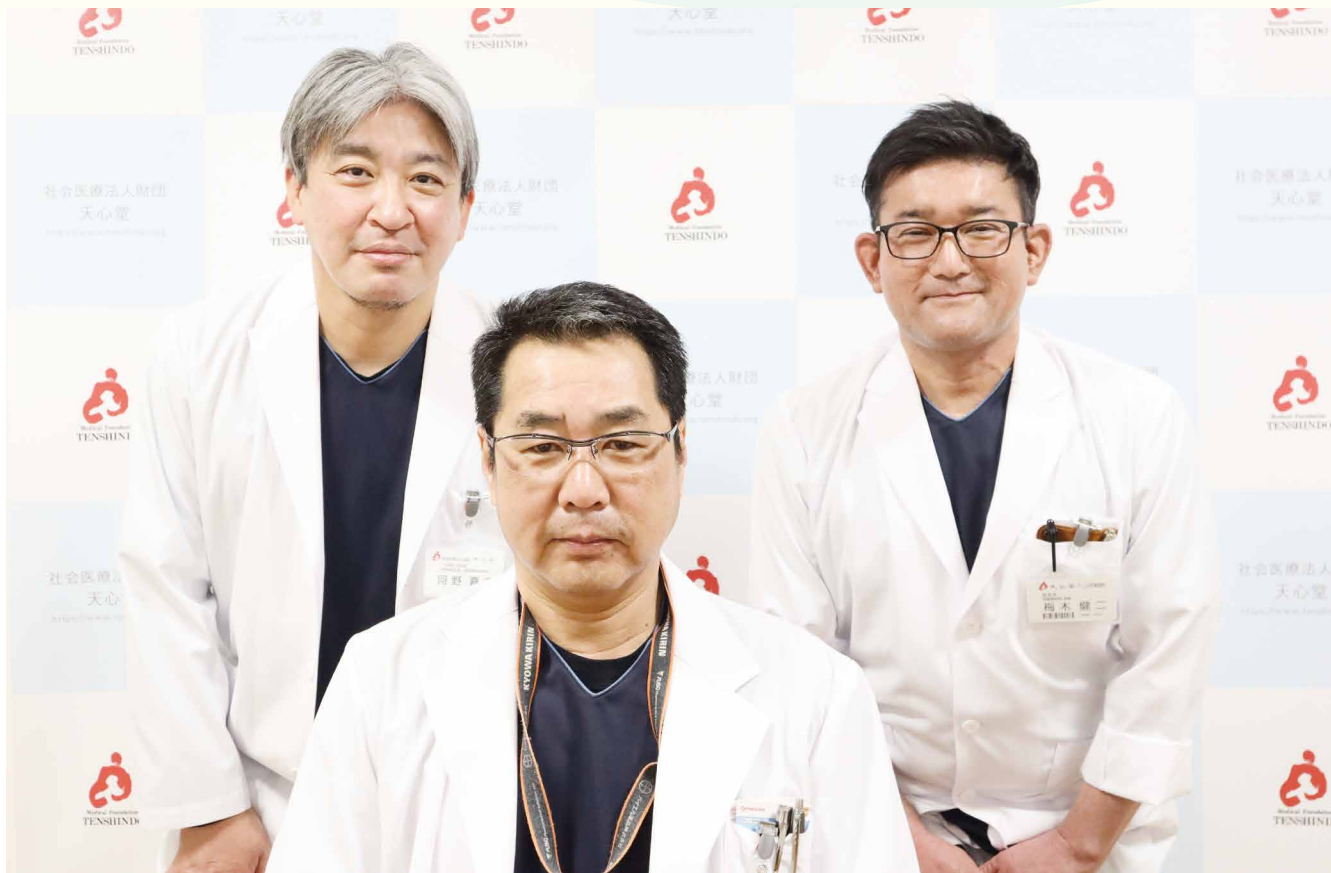
岡部：私は診療所の勤務経験があるのでわかるのですが、病院というのは敷居が高い。在宅と言えば自宅と施設がありますが、病院のドクターは往々にして施設を病院のサイズダウンしたものとしてイメージしがちです。例えば、施設の夜間の人員配置はとても厳しいです。その中で転倒などあれば1人は救急車に同乗し、残り1人で利用者を看なければならぬなど、いろいろな問題があります。病院のドクターには訪問診療に同行して一度みてもらい、実際どういったことがおこなわれているのかを、勤務医として知ってほしいと考えています。

阿南：在宅復帰のリアルを、在宅にお返りする医療機関の責任として、医師に限らず様々な職種の多くの職員に知ってほしいというお考えですね。

岡部：施設との情報共有のツールとして、例えば循環器内科の心不全ハートノート(心不全ポイント自己管理用紙)はとてもわかりやすい。そのようなツールをたくさん作っていくことが大事で、施設訪問し実際を知ることによって、我々が地域や施設から信頼される病院になれるのかなと思っています。

河野：ビジョンを端的に言うならば、基本は地域完結型。それが患者さんにとっては、一番だと思っています。高齢化してきて交通手段のない方が遠くの病院に行くのはなかなか難しい。この地域の方が、治療して自宅に帰り、また悪くなったら入院できるというような病院を目指していくことが、当院が特化できるような部分かと思っています。

阿南：病院が多機能であり在宅復帰までしっかりみられる、そして退院後をしっかりフォローできる、それをやり続ける病院をめざすということですね。



写真左から河野副院長、岡部院長、梅木副院長

地域への取り組み

阿南：さらに全国的に地域医療の課題として、開業医の先生方の継承問題があります。その中で当院が担うべき役割は、どう考えますか。

河野：開業医の医師の高齢化は問題ですし、後継者もおられない。そうなったときに、患者さんが行き場を失うということがでくると思います。

岡部：まずは病院で訪問機能を持ち得て、そこを押さえていくことは大事なことです。いわゆる地域の在宅支援病院を意識した病院構築は必要になってくると考えますし、そのようなチームを作るためにコアになる人が必要になってきます。

梅木：この地域で一番大きい病院であるのは間違いありません。一方で当院で全部できるわけではないのも現実です。それぞれの地域で分担すべき部分がありますが、連携がうまくとれていない部分があると思います。その点がずっと気になっています。最近の出来事ですが、喘息治療が十分でないまま苦しんでおられる方が紹介ではなく本人の申し出で受診されました。こんな時に、ご紹介いただけて良い形で連携がスムーズにいけば良いと思います。その連携がとれていないし、こちらら啓発、歩み寄りが足りていないと思います。この地域から遠くまで通院されておられる方もい

ます。地域住民の皆さんに対して、より一層アピールできたらいいなと思っています。

阿南：今年度呼吸器内科は3人体制と他に類をみない充実した体制となるので、地域への発信、開業医の先生方との連携が必要になってくるということですね。

岡部：コロナ禍にいろいろな活動が停滞しました。新しい活動のきっかけになってほしいと願っています。

現状の課題とは？

阿南：では、現状の課題は？スタッフ教育は課題としてあがっていますが、他はどうですか？

岡部：医師一人ひとりの帰属意識、職員一人ひとりの帰属意識を高めることだと思います。それは何かと言えば、やはり安心して働ける職場。職員がこの病院で働きたいと思うのは、一つのことだけではなく、例えば給料をあげるだけではだめだと考えます。多岐にわたるいろんなエレメンツを抽出して、それを一個一個うめていく作業をしていくこと。それが、病院の、法人の力につながっていくと思います。あと、特に医局に関して言えば、常時若い医師が入ってくるような組織がしっかりとできていくことが大切であると思います。いろんな年代の人がいて、流れが一通りできている。そういう組織が安定すると考えています。

梅木：地域に根ざして、地域住民あるいは近隣の開業医の先生と連携をより深めていく。天心堂のことをご存じない地域住民の方もおられますから。

岡部：その点でいえば、救急車ではなく、ウォークインで受診して入院になったというケースが増えています。「ちょっと悪いからへつぎ病院で診てもらおう」となっているのはうれしい傾向です。

河野：ウォークインの患者さんを診察することで、地域の患者さんが増えることにつながりますね。

阿南：河野先生、その他課題は？

河野：やはり、医者だけでなくメディカルスタッフのやりがいのある職場作りかと思います。やりがいを感じなければ、長続きしません。そのためには、やはり相互理解、病気に対する理解、患者さんに対する理解が必要で、一人ひとりがもう少し理解を深める。忙しくて与えられた仕事をやるということになっているのかもしれませんが、わからないでやるのとわかってやるのとでは、やりがいが変わってくると思います。入職したときは、みんなそんな気持ちをもっているんです。だけど、それをいつのまにか忘れてしまう、忙しさに負けてしまっただけ。なかなか難しいと思うが、もう一回入職したときの気持ちにかえって。

岡部：2023年3月に内科外科混合病棟に転換したときはかなり心配しましたが、今は本当にすごい。それを我々が職員にしっかりと「とてもすごい。レベルアップしてる」と声に出して伝えることが大事なんだと思います。

河野：いやー、本当にすごい。はじめはどうなるかと思った。内科外科がいっしょくたになっている、こんな病院ないですよ。本当によく頑張っていると思います。

阿南：今後の具体的な展望をお願いします。

岡部：役職をもった人の背中をみて、上になるのを嫌がるような組織はよくないと思います。私もあんな風になりたいとみんなが上の役職にあがりたくするような組織作り。それもやりがいの一つだと思います。

河野：資格をとりたいスタッフを応援する仕組み作りはいると思いますね。資格支援制度ですかね。モチベーションがあがるのに、壁があって先に進まない職員もいっぱいいる



でしょうから、病院が必要とする資格を提示して応援するシステムが必要だと思います。

阿南：病院に必要な資格に関しては、適切に評価できるような仕組み作りを今年度はおこなうということですね。

梅木：地域への啓発活動として、市民公開講座をぜひ実現したいです。

河野：全体参加型の勉強会をしたいですね。例えば、一つの症例を医者立場から、看護立場から、リハビリからの立場から、じっくり考えるような症例検討会。多職種カンファレンスですね。

岡部：とても面白い。それに訪問診療の医師に入ってもらって、在宅にもどったときに診てほしいポイントをあげて。そこで話したことが、職員のモチベーションをあげるきっかけになると思います。

河野：医者は退院したあと外来で患者さんを診るので、どれだけ元気になっているかというのがわかるんですが、病棟看護師さんはわからない。どれだけよくなったかの実感がわからないと思うんですね。

梅木：皆さんの努力がきちんと活かされているということを知る機会にもなるので、ぜひやりたいですね。

岡部：いろんなことがあって、組織はきついなという時期があったりしますが、それがずっと続くわけではありません。そうならないように、いろんな人が努力をしていて、そういう辛い時期を乗り越えて新しい流れができてくる。この何年間でそれを理解してくれる人がいると、次の世代の種になると思います。これからいろんなことが病院の内部で起こると思いますが、うまくいくためにはどうするかということを考えて、知恵を出し合うこと。それがまた自分の視野を広げることにつながると思うし、自分の考え方の多様性をふやすことにつながるの、ぜひネガティブではなく、建設的な検討ができる組織にしていきたいです。阿南：今日はありがとうございました。



インタビュー

院長 岡部 英司(腎臓内科)

副院長 梅木 健二(呼吸器内科)

副院長 河野 嘉之(循環器内科)

司会 阿南 卓 (事務長)

